

四国こどもとおとなの医療センター

内分泌・代謝内科臨床研究部長

吉田守美子氏

香川の医療最前線

621



血や自宅で測定するなど、

血糖値を「点」でとらえる

HbA1cは、あくまで

しかなかった。それが機器の進化で24時間連続してモ

平均を反映した数値。実際

持続グルコースモニタリング

糖尿病管理の新標準

主体的な治療が可能に

自覚症状がなく、気付かずに放置すると、失明や腎機能の低下、心筋梗塞、脳卒中など重大な疾患を併発する2型糖尿病。県内では人口10万人当たりの受療率が、全国ワースト上位の常連となっている。四国こどもとおとなの医療センター

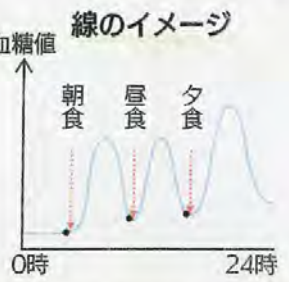
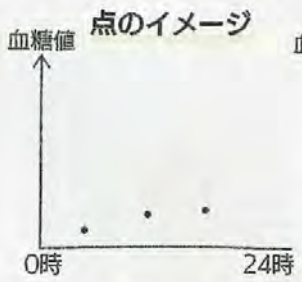
内分泌・代謝内科の吉田守美子臨床研究部長に、糖尿病管理の新標準になりつつある「持続グルコースモニタリング」について聞いた。

血糖変動とは。血糖値は血液中のグルコース(ブドウ糖)濃度のことだが、従来は病院での採

ニタリングできるようになった。そうして血糖値を「線」としてとらえ、変動を見るという考え方が、糖尿病治療では常識になりつつある。

の血糖は一日のうちでも変動を繰り返しており、それはHbA1c値だけでは気づきにくい。

でなく、主体的に向き合ったようになるのは大きい。血糖の変動幅が大きいと良くないのか。なるべく小さい方がいい。血糖の乱高下は、そのグラフがとげのような形となることから、「血糖スパイク」と呼ばれる。血管にダメージを与え、動脈硬化や心筋梗塞・脳梗塞のリスクが高くなる。



者、低血糖や高血糖に気付ける。また、患者も値が常に見えることで意識が変わる。例えばインスリン使用量や食事内容、運動の種類によって血糖は変動することが分かる。そうすると自分で管理しようと思っものだ。糖尿病に対して受け身

従来の血糖測定は、その都度指先に針を刺して血を出すなど手間がかかっていたが、持続グルコースモニタリングでは、センサーを上腕部や腹部に装着したままで、データをスマートフォンや専用機器で読み取る仕組みだ。装着したセンサーは10日〜2週間単位で使用し捨て。糖尿病でインス

リン自己注射を行っている人なら保険適用される。3割負担で月々4千円くらいだ。

—どのような人に勧められるのか。インスリンを使っている人で、低血糖の心配がある人、血糖の変動が大きい人、より良好な血糖管理を目指す人に特に勧められ、常に値を知り生活習慣を改善したいという人にも向いている。使いやすい機器であり、興味があれば主治医や糖尿病専門医に相談してほしい。

■ 四国こどもとおとなの医療センター 内分泌・代謝内科

糖尿病、肥満症、内分泌疾患などに対応。糖尿病に関しては、2型糖尿病だけでなく、1型糖尿病、妊娠糖尿病なども専門としている。糖尿病のある妊婦も産科と連携して診療を行っている。

所在地 善通寺市仙遊町2丁目1の1
電話 0877 (62) 1000
<https://shikoku-mc.hosp.go.jp/>